

【棕櫚の行列】ゼカリヤ 9章9～10節

- ⁹ 娘シオンよ、大いに踊れ。
娘エルサレムよ、歡呼の声をあげよ。
見よ、あなたの王が来る。
彼は神に従い、勝利を与えられた者
高ぶることなく、ろばに乗って来る
雌ろばの子であるろばに乗って。
- ¹⁰ わたしはエフライムから戦車を
エルサレムから軍馬を絶つ。
戦いの弓は絶たれ
諸国の民に平和が告げられる。
彼の支配は海から海へ
大河から地の果てにまで及ぶ。

【棕櫚の行列】ルカによる福音書 19章28～40節

- ²⁸ イエスはこのように話してから、先に立って進み、エルサレムに上って行かれた。²⁹ そして、「オリーブ畑」と呼ばれる山のふもとにあるベトファゲとベタニアに近づいたとき、二人の弟子を使いに出そうとして、³⁰ 言われた。「向この村へ行きなさい。そこに入ると、まだだれも乗ったことのない子ろばのつないであるのが見つかる。それをほどいて、引いて来なさい。³¹ もし、だれかが、『なぜほどくのか』と尋ねたら、『主がお入り用なのです』と言いなさい。」³² 使いに出された者たちが出かけて行くと、言われたとおりであった。³³ 子ろばをほどいていると、その持ち主たちが、「なぜ、子ろばをほどくのか」と言った。³⁴ 二人は、「主がお入り用なのです」と言った。³⁵ そして、子ろばをイエスのところに引いて来て、その上に自分の服をかけ、イエスをお乗せした。³⁶ イエスが進んで行かれると、人々は自分の服を道に敷いた。³⁷ イエスがオリーブ山の下り坂にさしかかれたとき、弟子の群れはこぞって、自分の見たあらゆる奇跡のことで喜び、声高らかに神を賛美し始めた。
- ³⁸ 「主の名によって来られる方、王に、
祝福があるように。
天には平和、いと高きところには栄光。」
- ³⁹ すると、ファリサイ派のある人々が、群衆の中からイエスに向かって、「先生、お弟子たちを叱ってください」と言った。⁴⁰ イエスはお答えになった。「言っておくが、もしこの人たちが黙れば、石が叫び出す。」

【福音書日課】ルカによる福音書 23章32～49節

³²ほかに、二人の犯罪人が、イエスと一緒に死刑にされるために、引かれて行った。³³「されこうべ」と呼ばれている所に来ると、そこで人々はイエスを十字架につけた。犯罪人も、一人は右に一人は左に、十字架につけた。³⁴「そのとき、イエスは言われた。「父よ、彼らをお赦しください。自分が何をしているのかわからないのです。」」人々はくじを引いて、イエスの服を分け合った。³⁵民衆は立って見つめていた。議員たちも、あざ笑って言った。「他人を救ったのだ。もし神からのメシアで、選ばれた者なら、自分を救うがよい。」³⁶兵士たちもイエスに近寄り、酸いぶどう酒を突きつけながら侮辱して、³⁷言った。「お前がユダヤ人の王なら、自分を救ってみろ。」³⁸イエスの頭の上には、「これはユダヤ人の王」と書いた札も掲げてあった。

³⁹十字架にかけられていた犯罪人の一人が、イエスをののしった。「お前はメシアではないか。自分自身と我々を救ってみろ。」⁴⁰すると、もう一人の方がたしなめた。「お前は神をも恐れないのか、同じ刑罰を受けているのに。⁴¹我々は、自分のやったことの報いを受けているのだから、当然だ。しかし、この方は何も悪いことをしていない。」⁴²そして、「イエスよ、あなたの御国においでになるときには、わたしを思い出してください」と言った。⁴³するとイエスは、「はっきり言うておくが、あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる」と言われた。

⁴⁴既に昼の十二時ごろであった。全地は暗くなり、それが三時まで続いた。⁴⁵太陽は光を失っていた。神殿の垂れ幕が真ん中から裂けた。⁴⁶イエスは大声で叫ばれた。「父よ、わたしの霊を御手にゆだねます。」こう言って息を引き取られた。⁴⁷百人隊長はこの出来事を見て、「本当に、この人は正しい人だった」と言って、神を賛美した。⁴⁸見物に集まっていた群衆も皆、これらの出来事を見て、胸を打ちながら帰って行った。⁴⁹イエスを知っていたすべての人たちと、ガリラヤから従って来た婦人たちとは遠くに立って、これらのことを見ていた。

「主がお入り用なのです」【こども説教のために】

主イエスの最後の一週間を記念する「受難週」を迎えた今日、「棕櫚の主日」に、皆さんは、求められてここに連れて来られたのです。あのエルサレムに向かわれる主イエスをお乗せするために、十字架への道に進み入られる主イエスを「王」としてお迎えするために。

子ろばが連れて来られました。子ろばは、何も知りませんでした。人を乗せることも知りません。乗せる人が誰なのかも知りません。何のためにそうするのかも知りません。けれども、子ろばは連れて来られました。なぜか。

「主がお入り用なのです」。

神を賛美して歌う人々の中、主イエスをお乗せして行くのです。

「主の名によって来られる方、王に、祝福があるように。」

天には平和、いと高きところには栄光。」

今日、皆さんは、「ダビデの子、ホサナ」と歌う人々の中、主イエスをお乗せしているのです。たとえ、皆さんが何も知らなくても。誰かを乗せようなどと思っていなくても。主イエスがどなたなのか分からなくても。今、ここにいる理由さえ知らなくても。皆さんは今日、あの主イエスをお乗せして、十字架へとお連れするために、ここに連れて来られたのです。

皆さんを、今日、「**主がお入り用なのです。**」

「もしこの人たちが黙れば…」

皆さんがお乗せした主イエスは、今日、エルサレムに入られました。この週の終わりまでに「十字架」につけられるためです。十字架の上で死なれるためです。「十字架」のほかに、進み行かれる道はなかったのです。

そこには、命を狙う者たちがいるのです。捕えて、亡き者にしようと企てる者たちがいます。裏切る者もいるでしょう。信頼していたのに、肝心なときに離れて行ってしまう者もいるに違いありません。

極悪人の話ではありません。ごく普通の人々が、ことごとく闇に堕ちてしまう。そんなことがあろうか、と思われるようなことが、起こるのです。気が滅入るような話です。

「主の名によって来られる方、王に、祝福があるように。」。暢気に神を賛美している場合でしょうか。人の闇、人の業の深さを、まざまざと見せつけられようとしているのです。

昨年末の降誕祭のころ、「今年はひどい戦争が起こっているから、クリスマスを祝う気分になれない」とおっしゃる方がありました。そうでしょう。正直な方です。人の闇を見ているのに、業の深さを突きつけられているのに、まるで何も知らないような顔をして自分たちだけ浮かれているわけにはいかない。そう思うのは当然です。

黙らせるべきでしょうか。世界中から戦争がなくなるまで、黙っているべきでしょうか。わたしたちの目に映るどんな小さな闇も消え去ってから、賛美を歌い、祝いを始めるべきでしょうか。

いいえ、「**黙れば、石が叫び出す**」でしょう。何も知らない子ろばたちが、踊り出すでしょう。ろばに乗って「十字架」への道を行かれる方は、すべての者が沈黙するようなところにこそ、おいでだからです。そこに向かうことを厭われないのです。たとえ暗闇に包まれたところであっても、目をつぶってしまうことはありません。このお方にもはや誰も目を向けなくても、このお方は、そこに留まり続けられる。そのときには、「**石が叫び出す**」のです。

「他人を救ったのだ」

ろばに乗ってエルサレムに向かわれたお方は、この週、わたしたちを「十字架の出来事」へとお連れくださるでしょう。

何度、その出来事の物語を聞いてきたでしょうか。どれほど、この出来事の闇深さを突きつけられてきたでしょうか。

「もう、その話はよそう。教会は、辛気臭い話ばかりするから、敬遠されるんだ。もっと明るいことを話そう。そう、心が洗われるような清々しい話をして、軽やかな気分になろう。」

そうできたら、どんなによいでしょうか。「受難週」がなかったら、どんなに気楽だったでしょうか。「十字架の出来事」を語らなくてよかったのなら、万人受けする感動話をしていればよかったのなら、皆さんも、牧師になる道を選んだかもしれない。

けれども、わたしたちは、今年も、「受難週」へと連れて来られたのです。「主がお入り用なのです」と言われて、十字架に向かわれるお方をお乗せするために、ここに引かれて来たのです。あのお方の「死に方」を見るために。

「他人を救ったのだ。…自分を救うがよい」、「自分を救ってみろ」、「自分自身と我々を救ってみろ」。十字架に磔にされたあの方を見て、人は異口同音に言うのです、「自分を救え」と。

けれども、あのお方は、十字架の上でおっしゃるのです。「父よ、彼らをお赦してください。自分が何をしているのか知らないのです」。

自分を救わず、他人の救いを願うことは、愚かなことでしょうか。愚かなのかもしれませんが、それでも、その愚かなことを選ばれたのです。選ばれて、貫き通されたのです。目の前にいる、自分を嘲る者たちが、救われるために。自分を罵る者たちと共に居続けるために。死んでみせなければわからない者たちのために。

「イエスよ、あなたの御国においでになるときには、わたしを思い出してください」。そう言った男は、まもなく死ぬでしょう。隣の十字架につけられたあの方と共に、死ぬでしょう。いいえ、まもなく死ぬこの男と共に、あの方は死んでくださるのです。この男の「死」にまで寄り添われるのです。

「あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる」。

その「楽園」は、どこにあるのでしょうか。天のかなたででしょうか。来世でしょうか。いいえ、十字架の上にあるのです。死に際に立たされた者たちの置かれたところに、あるのです。

「わたしは今日、あなたと一緒にいる。楽園にいる。」

このお方をお乗せするために、ここに連れて来られました。このお方と共にいるために。このお方と共に、十字架に向かう道を行くために。